

| | |
|--------------|---|
| Title | 2013年度 意匠学会論文賞選考結果報告 |
| Author(s) | 横川, 公子 |
| Citation | デザイン理論. 64 P.4-P.5 |
| Issue Date | 2014-08-31 |
| Text Version | publisher |
| URL | http://hdl.handle.net/11094/56309 |
| DOI | |
| rights | |
| Note | |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

2013年度 意匠学会論文賞選考結果報告

学会賞選考委員会

委員長 横川 公子

受賞論文

竹内有子氏

「久保田米僊とデザイン

— クリストファー・ドレッサーのデザイン論の受容をめぐる —」

受賞理由

受賞論文は、これまで、あまり言及されてこなかった、久保田米僊によるドレッサーのデザイン論受容を論じた論文であり、米僊とドレッサーそれぞれの元資料を読み込んで比較し、久保田が、美術とデザインの根源的同一性に遡って、ドレッサーのデザイン論を理解し、かつ、美術の「効用性」を主張した点で、ドレッサーに学びながら、美術・デザイン未分化の時代にあって、独自の立場を取り得たことを示しており、興味深い論考である。先行研究の研究、原資料の調査、資料の解釈を的確に遂行しており、主題の取り上げ方、論議の進め方においても他より優れている。

さらにドレッサーのデザイン論を受容しようとした明治期の工芸思潮の中で、米僊が捉えたデザイン論の独自性について論証することに成功している。米僊が、日本在来の絵画制作の根本思想を踏まえた独自の理解によって、ドレッサーの主張する「デザイン」を捉えなおしたこと、絵画（＝美術）と工芸に格差を認めず、「意匠」が芸術における根源的な「構想」の意を有するという理解に達していたことを的確に捉えた。これらのことは伝統的な日本の造形活動における「意匠」を踏まえた論考としても意義深く、意匠学会論文賞として顕彰するに相応しい論文である。

選考経緯

本論文賞は、『デザイン理論』61号・62号掲載論文を対象とし、前年度までの選考方法に則って選考されました。すなわち、第一次選考として、各選考委員が上位5位までの論文を選出しました。1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点と配点して、選考委員による順位づけを点数化し集計しました。この集計結果と各選考委員からの選考理由に鑑み再度検討し、最終結果を絞り込みました。

俎上に挙げられた論文は、対象論文14編のうち10編であり、選考委員全員が一致して推薦した論考はありません。また選考委員からの選考結果の集約がスムーズにいかず、大幅に遅れたため、やむを得ず、寄せられた結果に従って、選考委員3者による結果を一応の選考結果案とし、提案しました。その結果は、一位10点が1編、2位9点が1編、3位6点が1篇となりました。1位と2位の結果が僅差であったことに鑑み、一位該当論文を論文賞に選定することを、再度、選考委員全体に問い合わせた結果、最終的に当初推薦の一位選考結果が確定しました。

1位の竹内有子氏による「久保田米僊とデザイン——クリストファー・ドレッサーのデザイン論の受容をめぐって——」は、受賞理由に述べるように大変優れたものであり、伝統的な日本の造形活動における「意匠」を踏まえた論考としても意義深く、論文賞にふさわしい論考として論文賞に推薦いたします。